

地域おこし協力隊のふくしま散歩!

千軒そばを活用した食育事業「福島町産そばの収穫とそば打ち体験」(北日本港湾コンサルタント主催)の事業が10月と11月の2回にわたり実施されました。

この事業は、『農水省 平成27年度消費者ニーズ対応型食育活動モデル事業』として、千軒そば生産会と協力し開かれました。

10月17日(土)は収穫体験等の作業が行われ、参加者22名は千軒のそば畑で千軒そば生産会の佐藤孝男会長と笹島義廣副会長による刈取り方法等について説明の後、収穫体験作業、そばの実の乾燥体験や石臼挽きのそば粉を作りました。

2回目は11月14日(土)、福島町活性化センター「あづま〜」で函館市などから26人が参加し、前回の収穫体験で挽いたそば粉を使ってのそば打ち体験です。

千軒そばの会会員の実演に続き、そばの会会員の指導により参加者はそばを打ち、その後、自分で作ったそばを茹でておいしくいただきました。

更に、「地元のことを、もっと知って頂きたい」という思いから、福島商業高等学校の生徒さんに参加いただき高校生は終始楽しんでくれていました。

今回の企画は主催者からご相談を受けた時期が遅かったために刈取りからのスタートとなりましたが、来年は種蒔き→千軒そばの花鑑賞会→刈取りと乾燥→そば打ちの4回の体験メニューでの企画にしていきたいと思えます。



地域おこし協力隊
川端 教文



▲福島商業高校生も参加



▲小学生もそば切りに挑戦



▲自分たちで打ったそばで舌鼓

すっかり寒くなり特に朝晩の車の運転には注意が必要になって来ました。

福島町では雪が降る時期の農作物はハウスの中での椎茸栽培が多いのですが、全国的に雪が積もる地域で、キャベツ・白菜・大根・人参・サツマイモ・ジャガイモ・カボチャなど、あえて雪の下で保存することで甘みを増やすという低温熟成を行っている地域が増えてきています。

今まで当たり前のように廃棄していた物・・・例えば雪を利用して、保存に使うとか、倉庫に入れておいて夏にクーラーとして使うとか、雪の降らない地域(外国など)に雪だるまなどにして販売することが出来たら、元手も掛からず一石二鳥になるのですが。

話は変わって、海外では19世紀頃から農作業を通じてお年寄りや身体障害者・認知症患者・リハビリ患者の支援をする「グリーンケア」という取り組みが行われています。実際に畑で野菜を作り頭と体を動かすことで良い効果が表れるというデータもあるようです。

日本でも普段会社勤めしている人達が週末だけ農業が出来るという市民農園を運営している地域もあります。

農家の方から畑を借りて、その一部分の年会費で払い好きな野菜を育ててもらおうという内容です。

道具は農園で用意するので、庭や畑を持ってない都市部の人達に人気があるようです。



地域おこし協力隊
野口 和也

